

東京八王子西ロータリークラブ会長賞

池田 更紗(いけだ さらさ) 浅川中 1年生

作品名:南風吹くが私に教えてくれた事

図書:南風吹く

いつまでもこのままでいいのか悩む事がある。水泳も勉強もそして友情も…

愛媛県に住む、高校三年生の航汰。航汰を取り巻く、世界はいつも一緒なはずだった。航汰もそれを願っていたと思う。しかし、その世界を変える出来事は一瞬でしかあっさりしていた。河野女史から、俳句甲子園に、さそわれたのだ、愛媛県に住む人は、幼稚園の頃から、俳句を習っているが、その授業の度に休み、基礎ぐらの学力はあったが、甲子園に出るほどの能力、学力はなかった、しかしその分、勉強すればするほど、新しい物ばかりでとても楽しそうだった。そんな、とても頑張っている航汰が、私とは、反比例しているように感じた、しかし読み進めているうちに、私の考えが間違っているのに気づいた。私は最初航汰は頑張らなくても結果がついてきてうらやましいなと思っていた、しかし、航汰は『減らす方法を苦心したことがない日なんてない』と言っていた。苦心とは、いろいろ工夫をし心をつかうこと、航汰はいつも苦心し悩み続けていた。私と似ている。しかし、なぜかこれでも比例はしなかった。私はなぜか分からなかった。航汰は、頑張っただけで結果がついてくる。でも私は頑張っているのに、結果がついてこない…私は今これを書いて、やっと気がついた、私自身今までずーっと自分は頑張っていると思いつづけてきた。それは間違っていた事を、本読んで気付いた。河野女史が『自分が頑張っていると思った時点でそれ以上のびることはない』と言っていた。私は、自分より頑張っているけどのびない。それを人のせい(水泳のコーチ)にしてしまった。今までそんな感じで人にあたっただけで失敗し転んでばかりだった。私のお母さんにも一度人生考え直した方がいいと言われてしまいショックだった。悔しかった。私は、やっと気がついた、このままでいいのか、と悩んでいるひまがあるのなら、実行にうつしたいと、コーチのせいにしてしまったコーチとは別れて別のクラブにいきやり直したいと、航汰と比例するにはどうすればいいか、一学期に入って学級委員に自分から進んで立候補した。私以外にも一人いたけど、負けずと頑張った。

体育祭練習がはじまって、今まで本を読んでばかりで手を挙げたこともない私が、手を挙げて、意見を言う事ができた。人の前にたっているのはとてつもなく、きん張した。けど、自分が言いたいことを全て言えた。私はその時自信というものが身についたのだと思う。一学期、最後音楽祭の指揮者決めて課題曲の指揮者に、立候補した。他に誰もいなくてあっさりなれた嬉しかった。私は気がついて、はっとした。今まで航汰に比例するために頑張っていた。だけど、私のライバルは航汰ではない、前の自分だった。それを教えてくれたのは、航汰のライバル恵一だった。恵一は、頭が良くて愛媛県の誇りのような人だった。恵一も、俳句甲子園に誘われたのだ。航汰のできは全然良くないと恵一からいつも指摘され悔しがっていた。そんな恵一が航汰に言った言葉は、

「お前のライバルは俺じゃない、昔のお前だ」

そのあといいかげんライバル視するなと小声で言っていた。その時だった。私が、気がついたのは、私は航汰と比例するために、頑張った訳ではない、自分のために、違う、昔の私に勝つために頑張ってきたのだ、昔の私は本ばかり読んでマスクして前髪を目まで、かくして、おとなしめをよそおって、なるべくめんどくさい事件に巻き込まれないようにしていた。いじめがクラスにあったときだったし転校してきたばかりで怖かったから、でも、昔の私が卒業アルバムに書いてくれていた。『未来の私へ、今の私には自信というものがありません、どうか自信をつけて前に進んで下さい』と書いてあった。全て読むと涙がこぼれおちそうだった。私は卒業アルバムを書いた昔の私に言いたい事があります。それは、『あなたには負けないよ』と言いたいです。南風吹くに出会って、昔の自分より、自信と勇気と希望と夢をくれた。このままではだめと教えてくれた。

最後に過去の私と未来の私に手紙を書きます

過去の私へ。お元気ですか？私はとても元気です。南風吹くという本に出会って、私は、どんなに苦しい事があっても、けっしてあきらめない心、とどんなに悔しい事があっても、絶対人のせいにしない心、をもらいました。私のライバルはあなたです。これからもこの先も。絶対に負けません。未来の私より

未来の私へ。私は今自信と勇気であふれ明日を迎えるのが楽しみです。あなたはどうか？苦しい事悲しい事があっても絶対くじけてはいけません。南風吹くを読んで思い出して下さい。あなたのライバルはこの昔の私です。絶対に負けしないで下さい。私も負けませんよ。過去の私より